

# Kankyu no Tomo (2) : A Reproduction of Iwase Bunko Text and Collation of Various Texts

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/47696">http://hdl.handle.net/2297/47696</a>

『閑居友』(二)

—岩瀬文庫本翻刻と諸本対校—

藤原田行造  
藤島秀隆※

(※金沢工業大学助教)

十、覚弁法師涅槃經ときて高座にておはる事

ちかうの事にや。い賀の国に覚弁といふ僧ありけり。國中ノ物  
みなこそりてたうとみあふきけり。かゝるに、このくに五時の  
みのりをのへときて、人にゑんをむすはする事ありけり。そのこ  
ろは春のなかは二月をなむきためて、十五日お結願にしける。あ  
るときこの僧かたへの人にいふやう、我は十四日に法花経をとき  
のふへきにて待れとも、いさゝかおもふやう侍り。十五日にかへ  
てねはん経をとかんとおもふ也。かへ給てんやといふ。この人い  
とやすき事也。なしかはこれほと(31)の小事におほしわつらひ給へき。  
さら也といふ。さて悦て返ぬ(32)。十五日にはゆあみ、かしらそり、  
きよきものなときてすてにかうさ(33)にのほりて、のりとく事つねよ  
りもたうとし。みなあはれみあへり。さて、この人いふやう、昔も  
ろこしの竺道生のねはん経をとくとて、かうさにてのりとくおほ  
りて、やかてしにたまひけん事、いみしくたうとく侍。あはれ、  
たゝいまかくてしに侍らばやなといひもあえず(47)。さめくとなく。  
やゝひさしうかほもあけねは、あやしと思ほとにやかてなん身ま  
かりにけるとなん。この事をきゝしに、かきりなくあはれにたう  
とくおほえき。高僧伝をみ侍しに、かの竺道生の所にて、おほく  
のなみたをこほせり。廬山ノ精舎にて、法座(56)にのほりてのりとく  
き給におはりなんとせしとき、たちまちにてもちたる塵尾(63)のか  
うさよりおちけるにそ、ねはんにいりにけりとはしりそめ侍ける。

(校異) ①ちかうの↓ちかき比の(神)(2)い賀↓伊賀(宮・譚・神・類・版)  
(3)といふ↓と云(譚・神)(4)ありけり↓有けり(宮・譚・神・類・版)  
(5)國中ノ物↓國中の物(宮)(6)國中のもの(譚・神・類・版)  
(7)かゝるに(神)(8)この↓此(譚・神・類・版)(9)かゝるに(神)(10)  
みのり↓御法(神)(11)ときて↓説て(神)(12)あんにえん(宮・譚・  
類・版)縁(神)(13)むすはする事あり↓結ひける事有(神)(14)その  
ころは↓其比は(神)(15)なむきたむ↓なん(宮・神)(16)十五日お↓十  
五日を(宮・譚・神・類・版)(17)ける↓けり(譚・神・類・版)(18)あ  
るとき↓有時(神)(19)この↓此(宮)(20)かたへの人↓かたへに  
(譚・神・類・版)(21)いふやう↓云様(神)(22)かたへの人↓かたへに  
(譚・神・類・版)(23)おもふ↓思ふ(譚・類・版)(24)かたへの人↓かたへに  
涅槃經を説むと(神)(25)おもふ↓思ふ(譚・神・類・版)(26)給  
てんや↓給はんや(譚)(27)この↓此(神)(28)事↓こと(類・版)  
(29)これほと↓是ほと(神)これことの(類)(30)さら也↓さゝ也  
(譚・版)くともよめる(神)さなり(神)さう也(類)(31)いふ↓云  
(神)(32)返ぬ↓かへりぬ(譚・神・類・版)(33)ゆあみかしらそり  
きよきものなときて↓湯なとあみ、又かしらそり、きよものなときよ  
して(神)(34)すてに↓すくに(譚)(35)かうさ↓高座に(神)(36)  
のり↓法(神)(37)つね↓常(神)(38)さてこの人↓扱此人(譚・神・  
類・版)(39)いふやう↓云様(神)(40)昔ノ(宮)(41)昔の(宮)(42)む  
かうさ↓高座(神)(43)のり↓法(神)(44)おはりて↓を給ひて(譚)  
終りて(神)(45)しにたまひけん(神)(46)たうとく侍(神)む  
(譚・類・版)死に給ひてん(神)(47)たゝいま↓唯今(譚)只今(神)侍り  
(類・版)たうとく侍り(神)(48)しに↓死に(譚・類・版)しに(神)あ  
す(譚・神・類・版)(50)かほ↓顔(神)(51)なくやゝひさしうかほ  
もあけねは(神)(52)思ほとに↓思ふほとに(神)(53)あ  
はれ哀(神)(54)この↓此(文)(譚)(55)思ほとに(神)(56)あ  
はれ哀(神)(57)み侍しに↓侍しに(神)(58)か竺道生↓彼竺の  
道生(神)(59)なみたを↓なみたを(為)なみたを(神)(60)廬山ノ精舎  
かせり(神)(61)法座↓法座(神・類・版)(62)のり↓法(神)(63)おはり  
終り(神)(64)せしとき↓せしとき(神)(65)塵尾(神)(66)おちけるに  
(譚)(神)(67)塵尾(神)(68)おちけるに↓おちけに(譚)落けるに(神)

すへてこの経は、いつれの経よりもなつかしきものから(1)わひしくかなしく侍(2)まつはしめに(3)かくのこたくわれき(4)き。一時(5)仏狗戸那城力士生池阿利羅跋提河のほとり、沙羅雙樹のあひたにまし(6)き、といふよりなになくなみたらうかひて、心ほそくあさきなし(7)、心もみなうきたちてなにあやめおほえず。あやしむま(8)、とりなどのたくひもみなまいるのそみける(9)に、いかなるつみのむくひにて、そのときいつれの所にありてまいてまいりあはさりけん、とさらに身もうらめしくかきくらしめてそおほゆる。しかあるに、この覚弁の君の経をときて、その座にてをはりおとりけん、いたうあはれに侍(10)かのもろこしの道希法師の天竺にむかひて、俱尸那城般涅槃經寺にすみにわたり侍けるを、のちに燈法師のたつねゆきてみければ(11)、身まかりにけるとおほしくて、漢字ノ経はかりのこりて侍けるは、ことにいとをしくたうとくきこゆるそか(12)し。この事、遊心集にかたはかりのせ侍しにや。

〔校異〕(1)この↓此(譚・神・類・版)(2)なつかしきものから↓なつかしく侍ものから(譚・神・類・版)(3)わひしく(神)(4)侍り侍り(神・類・版)(5)まはしめに↓先はしめに(譚・神・類・版)(6)きき↓きき(宮)きき(譚)聞(神)起(類)きき(版)(7)狗戸那城↓物戸城(宮)(8)生池↓生地(譚・神・類・版)(9)阿利羅↓阿夷羅(神・類・版)(10)あひた↓間(神)(11)いふ↓云(神)(12)なに↓何(神)(13)なみた↓みなみた(譚)涙(神)(14)あさきなし↓あちきなし(諸本)(15)みな↓皆(神)(16)むま↓むし(為)宮・譚・類・版)虫(神)(17)とり↓鳥(譚・神・類・版)(18)たくひ↓類ひ(神)(19)みな↓皆(神)(20)のそみけるに↓望みにける(神)(21)つみのむくひ↓罪の報ひ(神)(22)にて↓更に(類)(23)とき時(神)(24)ありて↓有て(神)(25)さらに↓更に(神)(26)この↓此(神)(27)君の↓君(為)(28)ときて↓説て(神)とき(類)(29)その座↓其坐(神)その坐(類・版)(30)をはりお↓おほはる(宮)をはり(譚・類・版)終りを(神)(31)とりけん↓取けん(神)(32)いたうあはれに↓いと哀に(神)(33)侍り侍り(神・類)侍り(版)(34)かの↓彼(神)(35)法師の↓法師ノ(為)36 涅槃經寺↓涅槃寺(諸本)(37)すみにわたりすみわたり(為)宮・譚・神・類・版)(38)のちに↓後に(神)(39)たつねゆきてみければ↓尋ね行て見ければ(神)(40)身まかりに↓身まかり(神)(41)漢字ノ経↓漢字の経(宮・譚・神・類・版)(42)はかり計(神)(43)のこりて↓残りて(神)(44)侍ける↓侍りける(神)(45)ことに↓殊に(神)(46)いとをしく↓いとおしく(譚・神・類・版)(47)きこゆる↓聞ゆる(神)

十一、はりまの国の僧の心お、こす事

中ころ(1)、はりまの国におちたる僧ゆきとまりておるありける。するわさもなけれは、あさゆふもなけかしくて、田を(2)つくりてなむ身をすくしける。秋かり冬おさむるわさもおもふほともえなかりけるなめり。所のおさなりけるもの、なすへきものにみしむありとて、とらゑてるうにこめたりけり。さすかにほとある事なれは、ついに(3)はいてにけるなるへし(4)、さて、返てめこにいふやう、いまは我にいとまくれよ。ゆるきなく思ひかためたるなめりとて、ある山寺にのほり(5)ことわさなく一すちに念仏をそ申ける。人々みなあはれみて、よう(6)の事はのたまはせかけよ、と我もといふ(7)。しはしはさるほとこのこれうを日に二たひくひけるか、後には一日に一合のこれうを一たひなくひける。さて三年といふに、おのかいほりのまへにふたをかきてたてたり。なにわさをうれへたるふたそとみれば、ひさしくよにありてもそのようなく侍れば、心と命をすてむ(8)と思ひ侍也(9)。このうへの山にみきたるいはやの侍に、まかりなんこもりぬる。もし、我を我とおほさは、ものさはかしくたつねとふらひたまふ事なかれとそかきたる。人みなあはれみてたつねとふ事なし(10)。さて、おのつから日ころにもなりにければ、心ある人々せうくたつねありきけるに、西むきにありけるいはやにいきたるやうにて、手をあはせ西にむかひてしにたりけり。時の人いみしくあはれかりけり。その名をは、発心房とそいひける。いとあはれおける事かな(11)。

〔校異〕(1)中ころ↓中比(神)(2)はりま↓播磨(神)(3)ゆき↓往(神)(4)おる↓をる(譚)ありける↓有りける(宮)ありけり(為)類・版(6)あさゆふ↓朝夕(神)(7)田を↓田お(為)(8)つくりてなむ↓つくりてなん(為)宮)作りてなん(神)(9)身を↓身お(為)⑩おさなりける↓おさなかりける(譚・神・類・版)(11)みしむ↓未進(神)版には未進と傍書(12)とらゑて↓とらへて(譚・神・類・版)(13)ろうに↓籠に(神)(14)ほと↓欠文(宮)(15)いには↓つゝには(譚・神・類・版)終には(神)(16)いにて↓出に(譚)(17)なるへし↓成へし(神)類・版(18)さて↓扱(神)(19)返て↓帰て(譚)類・版(20)めこにいふやう↓めこに云様(神)(21)我↓われ(譚)類・版(22)思ひ↓おもひ(宮)譚・神・類・版(23)なめ

けに、いたつらにあけられて、つゝ病にとりこめられなんの  
 ちには、身もよはく心もおほれて思ひのことくもなくてをはり  
 をとらむ事、ほいなくそ侍へき。わか心のたかはぬ時、仏のちか  
 ひをあふきて、命をすてゝむ事かしこかるへし。たれをあはれまん  
 とちかひたまへる仏なればか、さはかりおしするいのちをたて  
 まつらん人おみすくし給へき。手足のゆひをたきて仏に供養する  
 をは、法花経にもうゑなき功德とほめたり。梵網経等にもあまた  
 すゝめたり。いはんやこのいのちをみな仏にたてまつりて、この  
 功德をさゝけてうきよをいつるたねとせんとねかはんは、ゆゝし  
 き心さしなるへし。また求道の寒きたり、このみつきえて、山をい  
 てゝさとにむかふに、山にすむ大地のいまより後、経のこゑをき  
 かさらむ事かなしみて、眼にちのなみたをなかしめてたかき木に  
 のほりて、はるかにみをくるに、やう／＼とおくなりつゝつひに

りなめり(為)な(宮)(24)ある↓有(神)(25)のほりぬ↓のほり  
 て(宮)(26)念仏をそ↓念仏おそ(為)(27)あはれみて↓哀みて(神)  
 (28)事はのたまはせ↓事の給はせ(神)(29)いふ↓云(神)(30)さし  
 ↓さて(為)宮・譚・神・類・版(31)これう↓このう(譚)かれう  
 (神・類・版)(32)くひけるか↓食けるか(神)(33)これう↓これう  
 (神・類・版)(34)たひなんくひける↓たひ食ける(神)(35)さ  
 ↓扱(神)(36)いふに↓云に(神)(37)おのかわるか(譚)(39)  
 類(38)いほりのまへにふたをかきて↓庵の前に札を書て(神)(39)  
 なに↓何(神)(40)ひさしく↓久しく(譚)(41)よにありても↓世に  
 有ても(神)(42)すてゝむ↓捨てむ(譚)捨てん(神)(43)思ひ侍也  
 ↓思ひ侍也(為)思ひ給也(宮)思ひ給侍也(譚)思ひ給ひ侍也(神・  
 類・版)(44)この↓此(神)(45)みをきたるいはやの侍に↓見置たる  
 岩屋の侍に(神)(46)まかり龍(神)(47)こもり龍り(神)(48)  
 もの↓物(神)(49)たつね↓尋ね(神)(50)とふらひたまふ事↓とふ  
 らふ事(神・なお)神(は)ラヒ給(と)傍書(51)かき書(神)  
 (52)みな↓皆(神)(53)たつね↓尋ね(神)(54)事なし↓事もなし  
 (宮・譚・神・類・版)「為」では底本と同様「も」を傍記(55)おの  
 つから↓をのつから(宮・譚・神・類・版)(56)日ころ↓日比(神)  
 (57)なり↓成に(譚・神)(58)ある↓有(神)(59)ありき↓有(神)  
 (60)西むきにありけるいはや↓西にむかひてそ有ける岩屋(神)(61)西  
 にむかひてしにたりけり↓終りける(神)(62)その↓其(宮)(63)い  
 ひ↓云(神)(64)あはれ也↓哀也(譚)哀なり(神)(65)事かな↓事  
 哉(譚)ことかな(神)こと哉(類・版)

みえずなりぬれば、つみのほとをかなしみてさま／＼の善心を  
 こして、木のうへより身をなけたりけるか、都率天にむまれて昔  
 のかはねを供養すなと経には侍そかし。もろこしの伝には、釈し  
 惠猛高岸より身をなけてしぬるに、いまたなかはのほとにて紫雲  
 身をまつふと侍。また、明安といふあま、江のほとりに身をなく  
 るに、金色の光ありて水のなかにいるとも侍めるは、いみしくた  
 うとくこそ侍れ。しかはあれと、かやうの事むかしよりいまに  
 たるまで、とかくさま／＼に一かたならすいふ人もあるへし。せ  
 んはた、我心にはからひて、すゝみもしりそきもすへきにこそ。  
 善道和尚あまねくすゝめ、義淨三蔵は、ひろくいましめたまへり。  
 これみなぎをはかりて、のたまふなるへし。よく／＼おもふへし。  
 [校異] 1) けにいたつらにあけられて、つゝ徒に明暮て(神)(2)つゝに↓つ  
 いに(為)宮(3)のち↓後(譚・神・類・版)(4)をはりて↓ををは  
 りお(為)おほりて(宮)終りを(神)(5)とらむ事ほいなくそ↓取  
 る事ほいなく(神)(6)わか心(神)(7)時↓とき(為)宮  
 (8)すてゝむ↓すてん(神)(9)たれをあはれまん↓たれをあはれ  
 まむと(譚)誰を哀まん(神)(10)ちかひたまへる↓誓ひ給へる(神)  
 (11)おしするいのちを↓をしうする(譚)ゆひをたきて  
 ↓指を焼て(神)(14)をは↓を(譚・神・類・版)(13)ゆひをたきて  
 なき(譚)上なき(神)うへなき(類・版)(16)ほめたり↓讚たり(神)  
 (17)たり、いはんやこのいのちをみな仏にたてまつり↓欠文(神)(18)  
 この↓此(神)(19)うきよをいつる↓うき世をいつる(譚)憂世を出  
 る(神)(20)せんとせむ(類・版)(21)ねかはんは↓ねかかはむは(為)宮  
 (22)また求道の寒きたり↓又求道の人寒来り(神)また求道の人  
 寒きたり(類・版)(23)このみつきえて↓このみつきて(為)このみ  
 つきて(宮・譚・神・類・版)(24)い、とさとに↓出て里に(神)(25)  
 こゑ↓声(神)(26)さらむ↓さらん(神)(27)かなしみて↓かなしひて  
 (譚)(28)ちのなみたを↓ちのなみたお(為)血の涙を(神)(29)  
 たかき↓高き(神)(30)みをくるに↓見送りけるに(神)(31)とおく  
 なりつゝ↓とをくりつゝ(宮)とをくりつゝ(譚)版)とをくりなり  
 つゝ(類)遠く成ければ(神)(32)つひに↓つひに(宮・譚・類・  
 版)終に(神)(33)つみ↓罪(神)(34)ほとをかなしみて↓善心をかな  
 しひて(譚)ほとかなしみて(神)(35)善心をかなしひて↓善心をおこ  
 けたりける(類)(38)都率天↓都卒天(神)(37)なけたりけるか↓な  
 ↓生れ(神)(40)昔↓むかし(神)(41)釈し↓釈の(宮・譚・神・類・  
 版)(42)高岸↓高き岸(神)(43)身を↓身お(為)(44)しぬるに↓死  
 ぬ(神)(45)にて↓に(神)(46)身を↓を(宮)(47)まつふ↓まつ(類)

十二、あふみのいしたうの僧の世をのかる、事

中ころ、<sup>(1)</sup>近江国石堂といふ所に僧ありけり<sup>(2)</sup>としな<sup>(3)</sup>かはに<sup>(4)</sup>あま  
りて、世をいとふ心なんふがく侍ける。さて、日にそくては人に  
かたをならふる事なとあきたく侍ければ、寺のましらひおはなれ  
んと思ひて、いとまをこひけれと人々をしみてゆるさす。さて、  
この人いみしく思ひなきて、日ころをふるほとに、そこちかく  
ところのをさなる男の身まかれるありけり。そのあとにつねにゆ  
きて、あるときはえんのうへに夜をあかし、あるときはひるしの  
ひにきてたちかへる事もありけり。かゝりければこのあるしのめ  
は、日ころも心おこしたる人とさきに、あはせて心の色をもまさ  
んとするよな。あはれなるへき心の中のなげかかと思ひおり。  
さて、たひかさなりければ、人々あやしのわさやなといひけり。  
ある人はつみのうるることなきこゑたまひそ。我におきてはうけひ  
かす。かゝる事きかしなともてはなるものもあり。かくて月こ  
ろをよくるほとに、けにたゝ事ともおほえすありければ、あまね  
くこのすちかちにひなりにけり。さて、このてらにはさやうの  
きこゑある人はなしとて、房きりさま／＼にはちかましき事あり  
て、おひいたしつ。この人としころありつきて、はなれもよく侍  
れと、今は更にかひなしとていてぬ。さて、はるかなる所にあや  
しのいほりむすひて、たゝひとりおりけり。さて、このめつたゑ  
きゝてわひなけく事がきりなげれとも、いまたこまやかなるたい  
めんもせねは、なげくにもたよりなし。また、人つてにきこえさす  
へき事にもあらねは、さてのみ日をよくる。さて、その後はこの

(48)とも共(譚・神)(49)また又(神)(50)いふ云(神)(51)  
あま下尼(譚・神・類・版)(52)ほとり辺り(神)(53)ありて有  
て(神)(54)なかに中(神)(55)こそ社(神)(56)かやう下有  
様(神)(57)むかし昔(神)(58)いまに今(宮)(59)いたるま  
て至るまで(神)(60)いふ人云人(神)(61)あるへし有へし(神)  
(62)こそ社(神)(63)善道善導(譚・神・類・版)(64)和尚(神)  
尚は(神・類・版)(65)たまへり給へり(宮・神)(66)これ下(神)  
(67)きを機を(神)(68)のたまふ下(給)(神)(69)おもふ思ふ(神)

人ふつとこの家によりくる事なし。夜ひるをわかす念仏を申。  
ねには道場にて、にしにむかひて定印をむすひて観念をしけり。  
〔校異〕(1)中ころ中比(神)②石堂石塔(神・類・版)(3)いふ云(譚・  
神)(4)ありけり有けり(神)(5)とし年(神)(6)さて下(神)  
(7)日にそくては日にそえては(為)日にそへては(宮・譚・類・  
版)日に添えては(神)(8)あきたくあきた(譚)あき(神)(9)  
侍ければ侍りければ(神)(10)ましらひおはしは(神)(11)おほ  
(宮・譚・神・類・版)(12)をしましおし(神)「譚」では「お  
は」と傍書(13)この人此人(譚・神・類・版)(14)思ひなきて  
下おもひ嘆きて(神)(15)日ころ日比(神)(16)そこちかく下  
さなる(為)宮・譚(17)ありけり有けり(神)(18)その下其(宮)  
(21)あと下跡(譚・神)(22)つねにゆきて下常に行て(神)(23)とき  
下時(神)(24)えんえむ(類・版)(25)う上(神)(26)あると  
きはひるしのひにきてたちかへる事下ある時は昼忍ひて立かへりけ  
る事(神)(27)もありけり有けり(譚・類・版)侍(神)(28)こ  
の下此(神)(29)あるしめあるしの女(為)宮・神(30)日ころ  
下日比(神)(31)きくに下聞に(神)(32)あはれ下哀(神)(33)心  
中のなげかな下心の情かな(神)(34)おり下をり(譚)(35)  
さて下扱(神)(36)たひ度(神)(37)ある人下事(神)(38)つみのうる  
事(為)宮(39)なきこゑ下なきこゑ(類・版)な聞(神)(40)た  
まひそ下給そ(神)(41)おきて下をきて(譚・神・類・版)(42)もの  
下物(為)宮(43)かく下かく(神)(44)ころ下比(神)(45)をよ  
くる(為)宮(46)ほと下程(譚・類・版)(47)とも下共  
(神)(48)この下此(神・類・版)(49)すちかちに下すち(譚)(50)  
さて下扱(神)(51)てら下寺(譚・神・類・版)(52)さやう下さ様(神)(53)  
きこゑ下きこゑ(宮・譚・類・版)聞え(神)(54)ある下有(神)(55)  
房きり下房きたり(譚)房に來り(神)房にきたり(類・版)(56)あり  
下有(神)(57)この下此(神)(58)もう下まう(諸本)(59)今  
は更に下いまはさらに(為)宮(いまは更に(神)(60)さて下扱(神)  
(61)いほり下庵(神)(62)ひとり下独り(神)(63)お下「譚」では「を  
は」と傍記(64)さて下扱(神)(65)この下此(神)(66)め下女(為)  
(宮)(67)つた下た(宮・譚・類・版)伝(神)(68)き下聞  
て(神)(69)わひなけく下佗嘆く(神)(70)事下こと(類・版)(71)  
かきりなげれとも下限りなげれと(譚)(72)めん下対面(神)(73)  
なげく下嘆く(神)(74)また下又(譚・神・類・版)(75)きこえ下き  
こゑ(為)宮(聞え(神)(76)事にも下事(神)(77)日を送る(神)(78)日をおくる(宮)日をおくる(神)日を送る(神)(79)家下い(為)宮(80)事下こ  
(78)この下此(譚・神・類・版)夜下よる(神)(82)わかす下分す(神)(83)念  
仏を申下念仏申(神)(84)つね下常(神)観念をしけり下観念をし  
けり(譚)

くいものには人のなげかをかくるときは、それをなん日をよく

るはかり事にしける。また、をのつからたへまなとのあるときは、  
 さとにいて、こふ事もありけり。かくてあまたのとしをへぬ。さ  
 て、あるときこの女の家にて、けさんすへき事ありといひけり。  
 あやしくなに事ならんとて、いそきてあひたれはいかにもよをの  
 かるゝ事を思ひあつかひて侍しに、その御とくにとしころのほ  
 いをなんとけて侍。いま、極楽にまいらんする事のちかく侍れは、  
 その悦申さむとてなんまうてきたるといひていてぬ。さて、七月  
 七日草のとさし、つかにして、ひそかにいきたへにけり。其時、  
 あやしき雲空にみえければ、人々おとろきてたつぬるに、この人  
 のかくれぬる事をしりぬ。さて、七日かあひたあまねく人にえん  
 をなんむすはせける。いみしくありかく侍ける心のうちなるへ  
 し。人のならひにはいかになりはつるまでも、程にふれつゝほね  
 をはうつむとも名をはうつましとおもひためるに、いまこの人の  
 さま、いかてか仏も御覽しとかめす侍へき。かやうにふつに身を  
 すて侍人には、をはりるとき、かならずめたゝしきほととの瑞相の  
 侍なめり。なをくあはれに侍り。

〔校異〕(1)く、いものくひもの(譚・類・版)食物(神)(2)にはなとは

(宮・譚・神・類・版)(3)なさけ↓情(神)(4)とき↓時(神)(5)  
 日を送る(神)日を送る(類・版)(6)事にしける↓こ  
 とに(類・版)(7)また↓又(神)(8)たへ↓また(宮)絶間(神)  
 たえま(類・版)(9)また↓に(類・版)里に出て乞事(神)(10)  
 あり↓有(宮)(11)あまた↓数多(神)(12)さて↓扱(神)(13)ある  
 とき↓有(神)(14)家↓い(為)宮(15)きて↓来(神)(16)け  
 さん↓はさん(譚)けんさん(神)(17)あり↓有(神)(18)よ↓世を(神)  
 (19)その御とく↓此恩徳(神)(20)はい↓本(神)(21)その↓其(宮)  
 (22)申さむとてなん↓申さんとて(譚・神・類・版)申さんとて  
 (宮)(23)さて↓扱(神)(24)草のと↓草の戸(神)(25)さし↓つか  
 に↓さしつかに(宮・譚・類・版)(26)たへ↓たえ(神・類・版)た  
 ん(譚)(27)其時↓その時(譚・神・類・版)(28)空↓そら(為)(29)  
 みえ↓み(為)宮(30)人々↓人(類)(31)たつぬる↓尋(神)  
 (32)この↓此(神)(33)さて↓扱(神)(34)あひた↓間(神)(35)え  
 ん↓縁(神)(36)を↓お(為)宮(37)あり↓有(神)(38)なり↓成(神)  
 (39)までも↓とも(譚・神・類・版)(40)程に↓ほど(神)(41)ほねを  
 ↓ほねを(為)骨を(神)(42)この人↓この人に(譚)(43)かやう  
 ↓か様(神)(44)身をすて侍人には↓身を捨侍人には(神)身をすて  
 侍人には(類)(45)をはりるとき↓終りの時(神)(46)めたゝしき↓め  
 たしき(譚・神・類・版)(47)なをく↓猶々(宮)

十三、かう野のひしりの山からによりて心を、こす事

中比、高野にみなみつくしといふ往生人ありけり。つくしのも  
 のふたりかうやにすみて、此南にすみかをかまゑて侍ければ、  
 時の人、南つくし、此つくしといひけるなるへし。この南つくし  
 は、日に一合のこれうをくひて、さらにそのほかのものゝくはす  
 ありければ、やせおとろへてそ侍ける。あるときさるへき人々あ  
 つまりて、なしかはかくはかり身おしましめ給へき。仏はみのり  
 をならひおこなふをこそ、ほいとはおほせられたためれ。たゝ物な  
 とおほからぬほとにくひ、つとめをもよくしておはせかしといひ  
 ければ、聖のいふやふ昔の心のおこり侍しころ、このみてちや  
 うもんを侍しに、たうときひしりのよりときたまひしをきし  
 かは、昔かしこき人ありき。いまたいゑにありけるとき、いみし  
 くこもりおあひしてかひけるか、一にやまから二れたりける  
 に、一のやまからはものもくはてつねにはこのはらにつきて、こ  
 のめよりいてんとのみして、やせほそりて水をたにおほくはのま  
 て、いてむとするいとなみのほかさらにことわさなし。いま一の  
 山からものいみしくひて、いさみほこれり。身もこゑふとりて  
 そありける。さるほとに、このやせたるやまからいたく身もほそ  
 りて、いかゝしたりけん、このめよりぬけてゝとひてさりぬ。  
 これをみてそのあるしのおとこ、されはうきよをいてんととな  
 まむ人もさるへきにこそ侍めれ。つねにうちしめりてたかきゑわ  
 らひもせず、心おもひに物なともくはてこそあるへかめれとさ  
 りて、やかてかしらおろして、いみしくおこなひて侍と説たまひし  
 をきししか、いみしく身にしみて、我もし出家の心さしをとけた  
 らは、さらむよと思ひそめしものち、いまはやあまたのとしをく  
 り侍ぬ。

〔校異〕

(1)いふ↓云(神)(2)あり↓有(神)(3)ものゝ↓者の(神)(4)  
 かうや↓高野(神)(5)すみて↓すみ(宮)⑥此南↓北南(為)此西  
 (譚・神・類・版)⑦かまゑて↓かまへて(宮)かそへて(譚)なら

へて(神・類・版)(8)此つくし北つくし(為・譚・神・類・版)  
 (9)いひ云(神)(10)この人(譚・類・版)此人(神)(11)  
 これうかれう(譚・神・類・版)(12)さらにそのほか更に其外  
 (神)(13)ものも(諸本)(14)あり有(15)やせ瘦(神)  
 (16)おとろへておとろえて(為・宮・神)(17)あるとき有(神)  
 (18)なしかはしまし(類)(19)身お身(宮・譚・神・類・版)  
 (20)おはらぬ(譚)(21)おこなふ(類)(22)おしほ(神)  
 (23)おはらぬ(類)(24)おはせ(神)(25)おしほ(宮)  
 (25)いふやふ云様(神)いふやう(宮・譚)(26)侍り(譚・類・  
 版)(27)ころ比(神)(28)このみて好み(神)(29)ちやうもん  
 の法(神)(32)たまひ給ひ(宮・神)(33)きき聞(神)(34)いかに  
 ありけるとき家に有ける時(神)(35)こもりことり(為・宮・  
 譚・類・版)小鳥(神)(36)おを(宮・譚・神・類・版)(37)あひ  
 ↓あい(譚・類・版)愛(神)(38)一籠(譚・神・類・版)(39)  
 やま山(譚)(40)二ふたり(神)「版」では「ふたつ」と傍記  
 (41)いれたりけるに「入たりけり」(神)(42)やま山(神)(43)もの  
 ↓物(神)(44)このはらこの腹(譚・類・版)「版」は「籠」と傍記。  
 籠の腹(神)(45)つきて付て(神)(46)このめ(籠)目(譚・神・  
 類・版)(47)いせんとのみして出んとのみして(神)いせんの  
 して(類)(48)やせ瘦(神)(49)水をたに水おたにも(為)水を  
 たにも(宮)(50)いせむいせむ(譚)出む(神)(51)ほか外(神)  
 (52)さら(神)(53)山からやま(宮・譚・類・版)(54)も  
 の↓物(神)(55)いみしくひていみしくらひて(神・類・版)(56)こ  
 ろこえ(譚・類・版)肥(神)57あり有(神)(58)この↓此(神)  
 (59)やま山(神)(60)いかに(類)(61)これをみて是を見て  
 いてとひてさりぬ出て飛去ぬ(神)(62)これを見て是を見て  
 (神)(64)おとこ男(宮・神)(65)うきよ(愛世)神(66)いて  
 ん出む(神)(67)むん(神)(68)こそ社(神)(69)ね(常)神  
 (70)こそ社(神)(71)あるかめれある(神)(72)かしら(神)  
 しらを(譚)(73)おろしてをろして(神・類・版)(74)おこなひて  
 ↓をこなひ(類)(75)たまひ玉(譚)給ひ(神)(76)きき聞(神)  
 (77)さらむ(神)(80)としをくり年を送り(神)(81)侍ぬはべ  
 りぬ(類・版)

我ものいみしくひて、ちからありとても、なにおこなひを  
 かし侍へき。あやまりておこたりそいて侍へき。はやゆるきな  
 く思ひかためてし事なれば、いかにたまはずともしたかふまし  
 き也とそいらへける。さて人々もなみたをとして、いふ事もな  
 くなりけりとなん。この事もききより、ふかく身にしてみ<sup>15</sup>  
 するるときなし。かのやまからのいにしへも、ことにあはれにし

のひかたく侍。されは仏は、或は三口くへともおしへ給。或は五  
 口くへともおほせられたり。また舍利弗は五口六口くひて、これ  
 をたすには水おもてせよといへり。されは龍樹并は身を益して、  
 馬をやしなふかごとくはすへからすとゞき給て、天台大師は食の  
 法たる事は、もと身をたすけて道にすまざむかため也とゞきた  
 まへり。これらのおしへをきかすして、おのつからやまからのゆ  
 へにさとりをくしけん心、けにありかたく侍へし。またつたへ  
 きとて、けにと身にしみけん人もかしこき心也。つらくおもひ  
 つくれば、この一もりのくひものは、かすもなきわつらひより  
 きたれるにはあらずや。春のひのなかに、山田を返すしつのお  
 のひくしめなはのうちはへて、いとなみたつるわつらひおとろ  
 かす、なるこの山田のはらのかりいほ、しもさゆるまてたしなみ  
 て、おしねをつめるいとなみ、或はほれはくたるいなふねに、  
 みなれさほさしわひ、或はあふさかやまのはけしきに、あしをは  
 やむるこまもあり。又、てつからおおみつからになへるいとなみ、  
 そのかすいそはくそや。

[校異] 1)しくひてしく食て(神) 2)あり有(神) 3)なに何(神)  
 (4)おこなひをこなひ(類) (5)いてき出来(神) (6)思ひお  
 もひ(神) (7)たまはず給はむ(神) (8)也なり(神) (9)さて  
 なみたをとおして(宮・譚・類・版)涙をおとして(神) (11)いふ云  
 (神) (12)なりにに成に(譚) (13)この事もこの事を(為・宮・譚・  
 類・版) 此事を(神) (14)きき聞(神) (15)身にしてみ(神) (17)  
 て(為・譚・神・類・版)身にしてみ(宮) (16)とき時(神) (17)  
 やま山(神) (18)しのひかたくしのはしく(宮・譚・神・類・版)

(19)或は三口くへとも食共(神) (21)お  
 しへをし(譚) (22)くへ食(神) (23)また又(神) (24)これ  
 ↓是(神) (25)たすには水おもてたすには水をもて(宮・類・版)  
 たすには水おりて(譚) たすけには水をもて(神) (26)龍樹并龍樹  
 菩薩(類) (27)やしなふかよしなふ(類) (28)とゞき給て説  
 給ひ(神)とき給ひ(類・版) (29)食の法たる食のつたる(譚) (30)  
 たすけ助(神) (31)道に道を(為) (32)すまざむすまざん  
 (譚・神・類・版) (33)ため為(神) (34)とゞきたまへり  
 き玉へり(譚) 説給(神) (35)これら下是等(神) (36)おしへを

しへ(譚)37きかす(神)38おのつから(神)39おのつから(神)40ゆへ(神)41さとりを(神)42ありかたく(神)43心也(神)44心也(神)45又伝(神)46一もり(神)47有難(神)48心なり(神)49此(神)50一もり(神)51有難(神)52心なり(神)53此(神)54一もり(神)55有難(神)56心なり(神)57此(神)58一もり(神)59有難(神)60心なり(神)61此(神)62一もり(神)63有難(神)64心なり(神)65此(神)66一もり(神)67有難(神)68心なり(神)69此(神)70一もり(神)71有難(神)72心なり(神)73此(神)74一もり(神)75有難(神)76心なり(神)77此(神)78一もり(神)79有難(神)80心なり(神)81此(神)82一もり(神)83有難(神)84心なり(神)85此(神)86一もり(神)87有難(神)88心なり(神)89此(神)90一もり(神)91有難(神)92心なり(神)93此(神)94一もり(神)95有難(神)96心なり(神)97此(神)98一もり(神)99有難(神)100心なり(神)

いかにいはんや、山人のねるやねりそのでもたゆく、ちからをつくせるたき木にて、これをいとなみ月の夜ころはいねもせず、からくいとめるしほかまのゆくゑなとおもふに、なみたもとまらすおほえて、我これをくひて、けふその経その伝をひらきて、聊心をこしつ。この功德をはあまねくわかつて、このいとなみの人々にほとこすなと思ひめて侍そかし。しかあるに、はかりなくいたはりなく、いみしくおほくひてしてはてには、こほしちらしなとせん事、そのつみ、かはかりそや。ねかはくは帳のほかをいてす、しとねのうへおくたらすいまそからんあたりにて、けにおほしとかめさせたまは、功德にや侍。されはもろこしには、いかなるものゝひめ君も、くひものなとしとけなげにくひちらしなとはゆめくせず。よにうたてき事になん申侍し也。この国はいかにならはしたりける事やらん。はやくせになりたれは、あらためかたかるへし。たかなひぬへからんほとを御つゝし、しみもあれかし。仏のこの一りうのよねを思はかるに、百のこうをもちるたりとおほせられ、龍樹菩薩のこれをはかりおもふに、食はすくなければおほしとのたまへる、あはれにこそ侍れ。

(校異) (1)ても手も(神) (2)ちからを(神) (3)たき木(神) (4)これ(神) (5)しほかまのゆく(神) (6)ちから(神) (7)ちから(神) (8)ちから(神) (9)ちから(神) (10)ちから(神) (11)ちから(神) (12)ちから(神) (13)ちから(神) (14)ちから(神) (15)ちから(神) (16)ちから(神) (17)ちから(神) (18)ちから(神) (19)ちから(神) (20)ちから(神) (21)ちから(神) (22)ちから(神) (23)ちから(神) (24)ちから(神) (25)ちから(神) (26)ちから(神) (27)ちから(神) (28)ちから(神) (29)ちから(神) (30)ちから(神) (31)ちから(神) (32)ちから(神) (33)ちから(神) (34)ちから(神) (35)ちから(神) (36)ちから(神) (37)ちから(神) (38)ちから(神) (39)ちから(神) (40)ちから(神) (41)ちから(神) (42)ちから(神) (43)ちから(神) (44)ちから(神) (45)ちから(神) (46)ちから(神) (47)ちから(神) (48)ちから(神) (49)ちから(神) (50)ちから(神) (51)ちから(神) (52)ちから(神) (53)ちから(神) (54)ちから(神) (55)ちから(神) (56)ちから(神) (57)ちから(神) (58)ちから(神) (59)ちから(神) (60)ちから(神) (61)ちから(神) (62)ちから(神) (63)ちから(神) (64)ちから(神) (65)ちから(神) (66)ちから(神) (67)ちから(神) (68)ちから(神) (69)ちから(神) (70)ちから(神) (71)ちから(神) (72)ちから(神) (73)ちから(神) (74)ちから(神) (75)ちから(神) (76)ちから(神) (77)ちから(神) (78)ちから(神) (79)ちから(神) (80)ちから(神) (81)ちから(神) (82)ちから(神) (83)ちから(神) (84)ちから(神) (85)ちから(神) (86)ちから(神) (87)ちから(神) (88)ちから(神) (89)ちから(神) (90)ちから(神) (91)ちから(神) (92)ちから(神) (93)ちから(神) (94)ちから(神) (95)ちから(神) (96)ちから(神) (97)ちから(神) (98)ちから(神) (99)ちから(神) (100)ちから(神)

竈の行(神)6なみた(神)7くひて(神)8その(神)9其(神)10心(神)11心(神)12心(神)13心(神)14心(神)15心(神)16心(神)17心(神)18心(神)19心(神)20心(神)21心(神)22心(神)23心(神)24心(神)25心(神)26心(神)27心(神)28心(神)29心(神)30心(神)31心(神)32心(神)33心(神)34心(神)35心(神)36心(神)37心(神)38心(神)39心(神)40心(神)41心(神)42心(神)43心(神)44心(神)45心(神)46心(神)47心(神)48心(神)49心(神)50心(神)51心(神)52心(神)53心(神)54心(神)55心(神)56心(神)57心(神)58心(神)59心(神)60心(神)61心(神)62心(神)63心(神)64心(神)65心(神)66心(神)67心(神)68心(神)69心(神)70心(神)71心(神)72心(神)73心(神)74心(神)75心(神)76心(神)77心(神)78心(神)79心(神)80心(神)81心(神)82心(神)83心(神)84心(神)85心(神)86心(神)87心(神)88心(神)89心(神)90心(神)91心(神)92心(神)93心(神)94心(神)95心(神)96心(神)97心(神)98心(神)99心(神)100心(神)

十四、常陸国のおとこ心を、こして山に在る事

中比、常陸国にいふかひなきあやし男ありけり。春にて侍けるなり、田かへしになまかれりけるに、れいよりもけにすぎいりぬへくおほえければ、また日もくれなくにいゑにかへりきけり。めなりける女、いかにとくかむれば、されはこそ、けふはいかに侍やらん。ものゝくひたたくてよはしくおほゆればきたる也。なに物ようせよ。くはむといふ。この女、おもはずにけにくいら多て、さらは火をたきつけよといふ。男火をふきけるに、えなんふきつけをわつらひけるを、この女、あなにくのかたいや。ふかくのものはとて、はきものしてかほをふみたりける。この男、とほりためらひて、やをらひひかくれぬ。さてものしてかほをふこかしこたつねけれと、さらになし。人々もきよあやしむほどに、としなかはかりへて、隣のさとのものなすへき事ありてふかき山にいたりたるに、この男、おのつからゆきあひぬ。あなあさまし。いましけるはといへは、その事也。しかくめの女のあたり侍しに、道心のおこりて、ものほしと思ひてたのみてきたるかひもなく、はけくとあたりしに、ましてしたる身もなく、あのようにおに、つらふまれん事こそかなしくあちき



なけれ。しかし、はやくかゝるうきよの中をのかれて、後せとらむとおもひて、やかてなんはしりいてにせ也。

〔校異〕(1)中比↓中ころ(宮)(2)常陸↓ひたちの(神)(3)あり↓有(宮・神)(4)侍けるなめり↓侍りければ(神)(5)まかれりけるに↓まかれりけるに(為)まかれりけるは(宮)(6)れい↓例(神)(7)けにすぎりぬへく↓けにすぎりぬ(宮)すぎりぬへく(神)(8)おほえ↓覚え(神)(9)目も↓目も(類)(10)くれ↓暮(神)(11)いあ↓家(神)(12)かへりきにけり↓かへりけり(宮)帰りにけり(譚)かへり来にけり(神)(13)こそ↓社(神)(14)いかに侍やらん↓いかに侍らん(神)(15)くひ↓食(神)(16)きたる也↓きたるなり(宮)来る也(神)(17)物ようせよ↓物ようをに(譚)物用意せよ(神)物よう、いせよ(類)(18)くはむといふ↓くはむと云(神)(19)この↓此(譚)神・類(20)けにく↓美にく(神)(21)いらあ↓いら(譚)神・類(22)たきつげよ↓ふきつげよ(神・類)版(23)いふよ云(神)(24)火を↓火お(為)(25)ふき↓吹(神)(26)えなん↓えなむ(譚)(27)ふきつげを↓ふきつげて(為)宮・譚・類(版)吹付て(神)(28)わつらひ↓頼ひ(神)(29)この↓此(神)かたいや↓かたはや(譚)神・類(版)(31)かほを↓かほ(為)か(宮)顔を(神)(32)この↓此(宮・神)とほり↓とはり(譚)神・類(版)(34)やをら↓やおら(為)宮(35)さて↓扱(神)かほ↓欠文(宮)譚・神・類(版)(37)さら↓更(神)(38)き↓聞(神)(39)としなかり↓しなかはかり(宮)としなかはかり(譚)年なかは(神)(40)へて↓経て(神)(41)隣↓となり(宮)(42)さとのもの↓里の者(神)(43)あり↓有(神)(44)いり↓入(神)(45)この↓此(宮)神(46)おのつから↓をのつから(譚)神・類(版)(47)ゆきあひ↓行逢(神)(48)あさまし↓浅まし(神)いましける↓いよしける(譚)(50)その↓其(神)(51)しか↓め(神)の女の↓かの女の(譚)神・類(版)しか↓の女(神)(52)もの↓物(神)(53)思ひ↓おもひ(譚)神・類(版)(54)きたる↓来る(神)はけ↓はけ(神)はけ↓はけ(神)類(56)したる身↓したる事(諸本)(57)おに↓鬼に(神)おに↓鬼に(神)あちぎなけれ↓かなしけれ(神)おに↓鬼に(神)おに↓鬼に(神)うきよ↓憂世(神)(61)のかれ↓逃れ(神)(62)後せ↓後世(宮)神・類(版)(63)いで↓出(神)

さて、かまをこしにさしたりしをもちて、てつからかみをさりすて、はへる。僧にあひてかんそりしてそらはやと思也。かならずそろうしきこゑはおはせとそいひける。さて、くひものはをりにふれて、木草のみあるを石になつてうちたゞきてくへは、またくうゑにのそむことなし。をりにふれつゝ風のふき、このはのかはりゆくをときにて、たのしみ身にあまりておほゆる也とそいひける。さて、さとにゆきてそのよしをいひければ、人々あつま

りて僧あひくしてゆきぬ。かしらそり、かひたもちなとして、あさ(26)の衣やう(27)のものけさなとよい(28)いたりければ、よ(29)とさうそきて、やかておくさまにゆきかくれぬ。さま(30)く(31)い物なとも(32)たせてゆきたりけれとも、ふつにめもみいれず、人にもなにくれといふ事なし。その(33)ちとし(34)ころありて、人に一二とあひたりけれとも、とりなどのやうにてちかくもよらねは、ものなといひかたらふにもおよはすとなん。ついに(35)はい(36)か(37)なり侍にけん、あはれにおほつかなくこそ。

〔校異〕(1)かみ↓髪(神)(2)すて↓捨て(神)(3)はへる↓侍る(宮)神(4)かんそり↓はんそり(神)類(版)(5)思↓思ふ(神)(6)そ(7)う僧(神)類(版)(7)きこゑ↓きこゑ(譚)神・類(版)(8)さて↓扱(神)9くひもの↓食物(神)(10)をり↓おり(宮)譚・類(版)折(神)(11)ある↓有(神)(12)石になつて↓石になつ(宮)石なとにて(譚)神・類(版)(13)うち↓打(神)(14)うゑに↓うへに(譚)神・類(版)飢に(神)(15)こと↓事(宮)神(16)をり↓折(宮)おり(譚)神・類(版)版(17)ふき↓吹(宮)神(18)このは↓この葉(為)宮(譚)木の葉(神)(19)かはりゆく↓替り行(神)(20)ときに↓とにて(神)(21)さて↓扱(神)(22)さしてゆき↓里に行(神)(23)その↓其(宮)(24)いひ↓云(神)(25)かひたもち↓戒たも(神)(26)あさ↓麻(神)(27)けさ↓袈裟(神)(28)ようい↓用意(神)29したりければ↓したりこれは(譚)30よと↓よくと(譚)神・類(版)31おくさま↓奥山(神)(32)ゆきせ↓持(神)(33)くい物↓くひ物(譚)神・類(版)食物(神)(34)もたせ↓持(神)(35)ゆき↓往(神)(36)とも↓共(神)(37)いふ↓云(神)(38)その↓その(譚)後(神)39とし(34)ころあり↓とし(比)有(神)40とありたりけれとも↓度逢て侍れとも(神)(41)とり↓鳥(神)(42)もの↓物(神)(43)いひ↓云(神)(44)およはす↓をよはす(譚)神・類(版)45ついに↓いには(譚)終には(神)つゝるには(類)版)

十五、するかの国うつの山にいゑあせる僧事

むげにちかき事にや。するかの国うつの山に、そこともなくさすらひありく僧ありけり。つねはあやしきむしろこもかた(と)とつちにてつくりたるなへやいとぎたなけなるおけ、ひさこなどかた(と)と、しとけなけになひてそありける。さて、ゆきとまる所に、むしろ、こめくりりにひきまはして、さるへきやうにいゑあしつらひて、ものしてくひなとしける。つねにはそのさとのものともにつかはれて、ひん(なる事)をはいみしく心してしけ

れは、ひんき房とそ名つ付たりける。たゝの乞食などはさすかに  
おほえず、おもへる所あるよしになんみえける。ある人たつねゆ  
きて、さても僧のまねかたにてかくは侍、とまめやかにいかにし  
て世をいつへしともおほえ侍らす。まことゝおほしされたらむ  
道、ひとつをしへ給へといひければ、れいになひたるものうち  
になひて、たちうらむ、くらうらむ、はらまきうらん、よろひう  
らんといひてそたちける。さて、この人さうけ給ぬしなゝの  
のをうりても、せんは身をやしなふをほいとす事なれば、いつ  
れのおこなひにても、よくたにせは後せをとりてんするそほいな  
るへきと、のたまはするにこそ侍なれ。

〔校異〕①さすらひありくさそらひありく(神)さそひありく(類・版)(2)  
あり有(宮・神)(3)つねは下常には(神)(4)あやしき下あやし  
の(諸本)(5)むしろ下筵(神)(6)つち下土(神)(7)つくり下作  
り(神)(8)なへ下鍋(譯・神・類・版)(9)やいときたなけるお  
け、ひさこなとかた下欠文(神)(10)ひさひ下引(神)(11)い下家  
あり有(宮)(12)さて下扱(神)(13)ひさひ下引(神)(14)い下家  
(神)(15)しつらひ下しつらひ(譯・神・類・版)(16)くひ下食  
(神)(17)つね下常(神)(18)ものとも者共(神)(19)ひん下食  
(類)(20)心して下えて(譯・神・類・版)(21)名つ付たりける  
下つ付たりける(譯・類・版)(22)あるよしにあるに(譯・神・  
類・版)(23)みえ下みへ(為・宮)見え(神)(24)ある有(神)(25)  
たつねゆきて下尋ね往て(神)(26)さて下扱(神)いつへし下  
くし(譯)(28)いひ下云(譯)(29)れい下例(神)(30)うちになひ下打  
荷ひ(神)(31)さうけ給ぬ下さうけ給ぬ(譯・神・類・版)(32)いひ下云(譯)  
(33)さて下扱(神)(34)さうけ給ぬ下さうけ給ぬ(譯・神・類・版)(35)  
しな(類)のものを品々のもの(神)(36)をにお為(37)うり下売(神)  
(38)せん下せむ(類・版)(39)おこなひ下をこなひ(類)(40)後せ下後  
世(宮・譯・神・類・版)(41)はい下ほひ(類)(42)のたまはするに  
こそ下のたまはするにとそ(類)

しかはあれと、をこなひやすくて、しかもはやく世をいつる事  
のきかまほしく侍そといひけれと、やかてものになひておくさま  
ゑいりにけり。この人、何事をこそとりわきそのをこなひとみゆ  
る事なくそ侍ける。あるときは人のいゑにもあり、或時は木のし  
たにもあけり。そのおはりに、このほとなやましくおほえ侍れ  
はとて、人のもとをいてつねの山のこかけにゆきて、二日はか  
りありて、西にむかひてそしにたりける。この人のすみ所こそあ

はれにきこゑ侍れ。つたの下道心ほそくらかりて、をりにふれ  
つゝいかにすみわたり侍けん。昔みし人もさためてあひけんもの  
を、おもひをくふしなくは、せうそこする事もあらしとあはれ也。

〔校異〕(1)をこなひ下おこなひ(宮・譯・神・類・版)(2)いひけれと下い  
ひけれは(宮)(3)ものになひ下物荷ひ(神)(4)なへ下(類・神・  
類・版)(5)この下此(神)(6)とりわき下とりわきて(譯・神・  
類・版)(7)をこなひ下おこなひ(為・宮・譯・神・版)(8)い下家(神)(9)あ  
り下有(神)(10)或時下あるとき(譯・類・版)ある時(神)(11)し  
た下下(神)(12)あけり下あけれ(為)(13)おはり下をはり(譯)終  
り(神)(14)この下此(神)(15)いて下出て(神)(16)つね下常(神)  
(17)こかけ下木かけ(譯・神)(18)はかり下計(神)(19)あり下有(神)  
(20)むかひて下向て(譯)(21)しにたりける下終りに(神)(22)  
この下此(神)(23)すみ下住(神)(24)きこ下きこえ(譯・神・類・  
版)(25)下した(為・宮)(26)らかり下聞かり(神)(27)  
をり下おり(宮・譯・類・版)折(神)侍けん侍らむ(神)侍け  
む(類・版)(29)昔下むかし(譯・類・版)(30)みし人下見し人(譯  
(31)おもひ下思ひ(宮)(32)あはれ下哀(神)

十六、下野守義朝の郎等の心を、こす事

中比、四郎入道とてこゝかしこおかみありくものありけり。  
下野守義朝の郎等なりけり。むらなきかうのものにてそありける。  
つみのほとおもふに、きもまとひむねつふれて、にはかにおの  
かみちをあらためてほたいになんおもむきにける。出家の日より  
しほたち、五こくをたちて、いとわたのけをきす、夏冬おわかす  
かきのあさのこそてのあはせたるを、なんきたりける。あやしの  
らうれうとおほしくて、そはむきのこのあらゝかなるをそたくは  
へたる。むまのなかははかりにたゝ一度それをくひて、のちはま  
たなにわさもなし。さのみはそはむきのこもいかてかあると人の  
いひければ、なき時はせりをつみてくひ、また松ノ葉をくひてさ  
てこそはあれとそいひける。さて、夏冬のかはるには、きものは  
いかておなしさまにてほとゝひければ、このちかころよりは、身  
のうゑにかせのわたるもいとさむくもおほえず、日のてるも事い  
たくもおほえず。ゆなとあみ侍も、あつきもぬるきもいとさたか  
にもおほえぬ也とそいひける。まことにそのさまたゝほねとかは

とにそみえける<sup>(38)</sup> しゝのあらはや、身にしむ霜かせもあらん。さて、ふかき山に入つてつは木のみをととりてあふらにしほりて、たうとき山々てらゝにたてまつるをおこなひにて侍とそいひける。人みなあはれみて、さまゝなさけをあたりけれと、あさするものなどはふつにえすなん侍ける。つねにさためたる所は、宇治のそはにたはらといふ所とそ。そのよはひは八十はかりそ。ける。

〔校異〕(1)おかみ↓拝み(神)(2)ありけり↓有けり(神)(3)かうのもの↓かうの物(譚)(4)ありける↓有ける(宮・神)(5)つみ↓罪(神)(6)おもふ↓思ふ(神)(7)にはかに↓俄に(譚・神)(8)おのかみち↓をのかみち(譚・類・版)をのか道(神)(9)ほたい↓菩提(神)(10)おもむき↓をもむき(譚)(11)夏冬お↓夏冬を(宮・譚・神・類・版)(12)わかす↓分す(神)(13)一なん↓ツなん(神)(14)らうれう↓糲料(神)「ラウレウ」と傍記(譚・版)「糲料」と傍記(15)そはむきのこ↓蕎麦の粉(神)譚・版「蕎麦の粉」と傍記(16)くひて↓食て(神)(17)のちはまた↓後は又(神)(18)そはむきのこ↓そはむきの粉(神)(19)あると人の↓あると、ひとの(為)あるとひとの(宮)(20)いひ↓云(神)(21)せりをつみて↓せりおつみて(為)せりをつみ。(神)(22)また↓又(神)(23)松ノ葉↓松の葉(宮・神)松のは(譚・類・版)(24)くひて↓食て(神)(25)さてこそはあれ↓扱こそは哀(神)(26)さて↓扱(神)(27)きもの↓着物(神)(28)あへ↓扱ければ↓と問ければ(神)ととひければ(類・版)(29)この↓此(神)(30)身のうあ↓身のうへ(譚・神・類・版)(31)かせのわたるもいとさむく↓風の渡るもい。さむく(神)(32)事いたくも↓いといたくも(神・類・版)(33)ゆなと湯なと(神)(34)あつきも↓暑きも(譚)(35)さたかにもおほえぬ也↓さたかにおほえすなりぬ(神)(36)いひ云(神)(37)かは↓皮(神)(38)みえける↓見えける(宮・譚・神・類・版)(39)霧かせ↓霧風(神)(40)つは木↓つばき(譚)御は木(類)(41)あふら↓油(神)(42)たうととき山々↓とうととき山々(神)(43)「タ」と傍記)たうとときやまゝ(譚・類・版)(44)あたりけれと↓あたへけれと(神)(45)あさする↓えさする(譚・神・類・版)(47)つねに↓常に(神)(48)宇治の↓うちの(譚)(49)いふ↓云(神)(50)そのよはひは↓其輪ひ(神)(51)八十はかりそ。ける↓八十はかりにそ侍ける(譚・類・版)八十はかりそ侍ける(為)宮八十計にそ侍け(神)

十七、稻荷山のみもとに日を、かみて涙おなかつ入道事  
 ちかころ<sup>(1)</sup> いなりの返りさかに、きしのうへ<sup>(2)</sup>にあやし<sup>(3)</sup>のこもひとつうちしきて、<sup>(4)</sup>としいとをひたる入道たゝひとりゐて、西にむ

かひてゆふ日をかみて、<sup>(6)</sup>さめゝとなくありけり。いかにと人のとひければ、我はしなのゝ国のたみにて侍しか、世中いとしたうあちきなう侍しかは、かくまかりなり侍。みやこはなにわさにつけてもよく侍とききて、<sup>(14)</sup>とふゝまかりのほりて侍。しれる事もなければ、たゝあみた仏をたのみたてまつりて、<sup>(18)</sup>夜ひるとくしてむかへたまへと、<sup>(21)</sup>なきをめきあつらへたてまつるよほかの事なし。夜はこのしもなる人のあたりに侍か、<sup>(24)</sup>一夜うちねねはさらにもあはず。あはれ、<sup>(28)</sup>よのはやもあけて日のいて給へかしと、<sup>(32)</sup>夜もすからまちたてまつる。さて、かねもち夜もほのめくほとになりぬれば、<sup>(34)</sup>このきしにゐ侍て、東にむかひて、はや日のいてたまへかしと思おりて、<sup>(37)</sup>日もいてゝやうゝ南にめぐり給へは、それにしたかひてまた南にむかひて、とくして我をくして西へおはしませとねかひ侍て、かやう時に西の山のはにかゝらせ給ときは、<sup>(42)</sup>こゑもをしますすなかれ侍て、我をすてゝはいづくへおはしますそとすゝろにかなしくて、<sup>(46)</sup>みとりこにて侍しとき、<sup>(49)</sup>母のものにまかりてしか、<sup>(50)</sup>心ほそくしたはしく侍しよりは、猶くらふへくもなくなしく侍て、<sup>(52)</sup>あみた仏いかにしたまひつるそと、<sup>(53)</sup>なくよりほかの事なし。

〔校異〕(1)ちかころ↓近比(神)(2)返りさか↓返り坂(譚)かへり坂(神)(3)きしのうへ↓岸の上(神)(4)うちしきて↓打敷て(神)(5)としいとをひたる↓としいとおひたる(為)宮・譚・類・版)年老たる(神)(6)ゆふ日↓夕日(神)(7)をかみて↓おかみて(宮・譚・神・類・版)(8)ありけり↓有けり(神)(9)とひ↓問(神)(10)我はしなのゝ国↓しのゝ国(譚)(11)たみ↓民(神)(12)いひたうあちきなう↓いとうあちきなう(神)(13)みやこ↓都(神)(14)つてりて侍て(神)(15)きよとて聞て(神)(16)まかりのほりて侍し(神・類・版)(17)しれる事↓しなる事(譚)知事(神)しれる事(類・版)(18)あみた仏を↓阿弥陀仏(神)(19)たのみたてまつりて侍したのみ奉る也(神)(20)ひる↓暮る(神)(21)むかへたまへ↓むかへ迎へ給へ(神)(22)たてまつる↓奉る(神)(23)ほかの事↓外の事(神)ほかのこと(類・版)(24)このしもなる人のあたりに↓此下なるあたりに(神)(25)侍か↓侍る(神・類・版)(26)うちねねれ↓打ぬれ(神)(27)さら↓更に(神)(28)あはれ↓哀(神)(29)よのはやも↓夜のはやも(為)宮)よのはやと(譚)よのはやく(神・類・版)(30)あけて↓明て(神)(31)日のいて給へ↓日のいてたまへ(為)宮)日の出給(神)(32)夜↓よ(神)(33)まちたてまつ

る。待奉る(神)(34)なりぬれば↓成ぬれば(譚・神)(35)のきし  
 ↓此岸(神)(36)日のいて↓日の出(神)(37)思おりて↓思をりて(譚  
 (38)日もいて↓日も出て(神)(39)したかひてまた↓従ひて又(神)  
 (40)かやう↓か様(神)(41)山のは↓山の端(神)(42)給とき↓給時  
 (神)(43)こゝろ↓声(神)(44)をします↓おします(譚・神・版)  
 (45)我を↓我(類)(46)すて↓は↓捨ては(神)(47)い↓く(何国へ  
 (神)(48)みとりこ↓みとり子(神)(49)侍しとき↓侍し時(為・宮・  
 神)(50)まかりてしか↓りは猶いでしか(譚・まかり出しか(神)  
 (51)猶↓猶々(神)(52)あみた仏↓阿みた仏(宮)阿弥陀仏(神)(53)  
 したまひつるそと↓したまひつるそと(宮)し給ひつるそと(神)  
 いまも人のみ給に、すこししのひ侍らんとつかうまつりつるか、  
 さらになはて、かくみとかめさせ給はかりに侍けるにこそとそ  
 いひける。さて、このとふ人いとあはれに思て、ときくものど  
 のえてつかはしなとしけり。あるときたつねさすれば、あとかた  
 もなしとなんかたり侍し。いといたうあはれにおほえ給。いとこ  
 まかにこそなけれども、をのつから日想観にあたりて侍けるにこ  
 そ。あめなどのほけしくふりけん、いかゝわひしく侍けん。思  
 はかりある人こそさまゝになくさむろも侍れ、みしきき心に  
 は、さらにはるゝかたなくおもひみたれてこそ侍けぬ。また、か  
 の人の行多いかになりけん、ことにおほつかなかく侍。たれゆへ  
 たてそめ給ちかひなればかは、たのむ人と御らんしすくすへぎ。  
 なればさためてかのみくにゝこそはむまれ侍にけぬ。いとをしく  
 侍ける心かな。

〔校異〕(1)つかうまつりつるか↓つかうまつりつる(類)(2)さらになはてに更に  
 (神)③給はかりに↓給まてに(宮・神・類・版)給さてに(譚)  
 侍けるにこそとそ侍けるにこそと(神)(5)いひける↓云ける(神)  
 (6)このとふ人↓此問人(神)(7)あはれ↓哀(神)(8)思て↓おも  
 ひて(神・類・版)(9)とき↓時々(神)(10)もの↓物など(神)  
 (11)とゝのえて↓とゝのへて(譚・類・版)調て(神)(12)かはしな  
 としけり↓つかはしなとしける(神)(13)あるとき↓ある時(或時  
 (譚)(14)たつね↓尋ね(神)(15)あとかたも↓跡かたも(譚・神)  
 (16)いたう↓いとう(類)(17)あはれ↓哀(神)(18)おほえ給↓おほ  
 え侍(諸本)(19)こまかに↓細かに(神)(20)とも↓共(神)(21)こそ  
 ↓社(神)(22)あめ↓雨(神)(23)わひしく↓佗しく(神)(24)思は  
 かり↓思ひはかり(神・類・版)(25)なくさむろも↓なくさむろも  
 も(為・宮・神・類・版)なくさむろも(譚)(26)さらになはてに更に(神)

(27)おもひみたれて↓思ひ乱れて(譚・神)思ひみたれて(類・版)  
 (28)かの人↓彼人(神)④行多↓つゝ(宮)(30)なり↓成に(神)  
 (31)ことに↓殊に(神)(32)たれゆへ↓たれゆゑ(為)誰ゆへ(神)  
 (33)給ちかひ↓給誓(神)(34)たのむ人と↓たのむ人を(神・類・版)  
 (35)御らん↓御覧(為・宮・神)(36)かのみくに↓彼御国(神)(37)  
 むまれ↓生れ(神)(38)侍にけぬ↓侍りけぬ(神)(39)いとをしく↓い  
 とおしく(譚・類)⑤侍ける↓侍。(為)侍人の(神)(41)心かな↓心哉  
 (譚)こころかな(神)

十八、あやしの入道空也上人南無阿弥陀仏みかほの入道南無阿  
 みた仏と、なふる事

中比、東の京にあやしのまつしき入道ありけり。するわざも侍  
 らず、たつねには空也上人南無阿弥陀仏。参河入道南無阿弥陀  
 仏。書写聖南無阿みた仏。恵心僧都南無阿弥陀仏といふ念仏をそ  
 申ける。後にはこういりて、いみしくたうとくそきこえける。を  
 ひのねふりはやうさめて、夜ふかく夢をのこしたる人々、ねさめ  
 のとこにあはれかけすといふ事なし。あるときはかきくらしうせ  
 て、日かすになるまでみえぬ事もあり。またなにしてやらん、  
 返きてまかひありくときもあり。かすならぬいゑのありけるをし  
 るへにて、ふるわたりをそむねとのゐる所にはしたりける。めもこ  
 もうせにければ、さら也、なにゝかは心のとゝまるふしも侍らん。  
 いみしく思ひすましてなんみえける。かゝるほとに、この人心な  
 やましきとて、さしいてもせず、ひとりゐたりけり。かくて四五  
 日してやおらはひいて、人々にたいめして、まかりかくれなん  
 事のちかく侍れば、みもきこゑ、みへもきこゑんとてなとあはれ  
 にいひつゝ、その辺の人々にふれまはりて、かへりてやかてほと  
 なく身まかれりけり。わたりの人々いとあはれにて、なみたにむ  
 せひけるとなん。あはれにしのはしく侍り。

〔校異〕(1)中比↓中ころ(宮)(2)東の京↓東ノ京(為・宮)(3)まつしき  
 参河(神)(4)ありけり↓有けり(宮・神)(5)つねには↓常に(神)  
 (6)南無阿弥陀仏↓なむ阿みた仏(譚)「无」は「無」(宮・神・類・  
 版)(7)参河↓参河の(神)(8)南無阿弥陀仏↓南無阿みた仏(為・  
 神)南無阿弥陀仏(宮)なむ阿みた仏(譚)(9)書写聖↓書写聖人(譚)

神・類・版(10)南無↓南无(宮)(11)阿みた仏↓阿弥陀仏(宮・神)あみた仏(類)(12)南無↓南无(為)なむ(譚)(13)阿弥陀仏↓あみた仏(宮)阿みた仏(譚)(14)といふ念仏と念仏(神)(15)云念仏(神)こころいりてこころ(譚)功のいりて(神)(16)云念仏(神)こゑ(為)聞え(神)(17)をひの↓おひ(譚)おひの(類・版)(18)ねふり↓寝ふり(神)(19)夢を↓夢お(為)20のこし↓残し(神)(21)とこ↓床(神)(22)いふ↓云(神)(23)あるときはは↓有時は(神)24日かすになるまで↓日数になるまで(神)日かすふるまで(類)(25)あり↓有(神)(26)またなにと↓又何と(神)(27)返きて↓歸り来て(神)かへりきて(類・版)(28)とき時(為)宮・神(29)かすならぬいゝ数ならぬ家(神)(30)ありける↓有ける(宮・神)(31)ふるわたりを↓ふるわたりお(為)(32)こも↓子も(宮・神)(33)うせに↓失に(神)(34)さら也↓さや(類)(35)なに↓何に(神)(36)思ひ↓おもひ(神)(37)この↓此(神)(38)ひとり↓独り(神)(39)やおら↓やをら(譚)(40)はひいて↓はひ出て(神)(41)たいめして↓対面して(神)(42)みもきこゑ↓みもきこゑ(譚・神・類・版)(43)みへもきこゑ↓みえもきこゑむ(譚・神・類・版)(44)辺の↓辺(神)(45)わたりの人々↓わたりの人(神)(46)あはれにて↓哀に(神)(47)しのはしく侍り↓しのはしく社(神)

十九、あやしの僧の宮つかへのひまに不浄観をこらす事

むかし、ひえの山<sup>1</sup>になにかし<sup>2</sup>とかやい<sup>3</sup>ひける人のもとにつかはれける中間僧ありけり。しうのためにひと事もたかうふるまひなし。いみしくま心にて、いとをしきものにそおもはれたりける。かゝるほとにとしころへて後、ゆふくれにはかならずうせて、つとめてとくいてくる事をしけり。しうもいみしくにき事に思ひて、さかもとにゆきくたるとこそあめれなと思ひけり。かへりたるときもうちしめりて、人にはかゝしくをもてなとあはする事もなし。つねにはなみたくみてのみみきければ、ゆきかふとこの事をあきたらすおもひて、かゝるにこそとそゆるきなく、しうも人も思ひきためける。さて、あるとき人をつけてみせければ、にしきかもとをくたりて、れんたい野にそゆきにける。このつかひあやしく、なにわさそとみければ、あちこちわけすきていひしらすいまくしくみたれたる死人のそはにゐて、めをとちめをひらきして、たひ<sup>34</sup>かやうにしつゝ、こゑもおしすそなきける。夜もすからかやうにして、かねもうつほとになりぬれば、なみた

おし<sup>37</sup>のこひてなん返ける。このつかひおもはすにかなしくおほえて、おもふらん心のほとはしらねとも、なみたをなかつ事<sup>38</sup>かきりなし。さて返きぬ。いかにとたつぬれば、その事に侍。この人<sup>46</sup>あやしく露ふかくしほれるは、ことほりしを侍へき。かうく<sup>47</sup>の事の侍て、はやうせけるなるへし。いみしきひしりのおこなひを、みたりにあやしのさまに思ひけかしけるつみのほとものかれかた<sup>50</sup>かなしくてといひけり。あるしおとろきて、其後はいみしきうやまひをいたして、さらにつねの人<sup>52</sup>にふるまひくらへす。

〔校異〕(1)ひえの山↓ひえの山(為)宮(となにかし↓何かし(神)(3)いひ↓云(神)(4)ありけり(譚)類・版(5)しうのため↓主の為(神)(6)ひと事↓ひとこと(譚)(7)たかうたかふ(神・類・版)(8)いとをしきものにそいとおしきものにそ(譚)類)いとをしき物にそ(神)9おもはれたりける↓おもはれけり(神)(10)としころ年比(神)(11)ゆふくれ夕暮(神)(12)つとめてとくいてくる↓勤めて出来る(神)(13)しうも↓主(神)(14)さかもと坂本(神)(15)ゆきくたるとこそゆきくたるとこそ(譚・神・類・版)神)の「こそ」は「社」と記す(16)思ひ↓おもひ(譚・神・類・版)神)かへり↓歸り(神)18ときも↓時も(神)(19)はかしくを↓はかしく(譚)神)18ときも↓時も(神)つねにはなみた↓常には涙(神)(21)みえければ↓見えければ(宮・神)みえければ(譚)類・版(22)ところ↓所(神)(23)しう↓主(神)(24)さてあるとき↓扱有時(神)(25)つけて↓付て(神)(26)れんたい野↓蓮台野(神)(27)ゆきに↓行に(神)(28)この↓此(神)(29)なにわさ↓何わさ(神)(30)わけすきて↓分過て(譚)わけ過て(神)(31)いひらす↓いひらす(類)9めをひらきして↓めをひらき祈て(譚)類・版(神)かねもうつ↓鐘も打(神)(36)なり↓成(神)やう↓か様(神)(35)かねもうつ↓鐘も打(神)(36)なり↓成(神)37なみたお↓なみたを(譚)神・類・版(38)返ける↓歸りける(神)かへりきて(類・版)(39)おほえて(神)(40)おもふ↓思ふ(宮)(41)しらねとも↓しらねとも(譚)神・類・版(42)さて返きぬ↓扱か(43)なかつ事↓なかつこと(譚)神・類・版(44)さて返きぬ↓扱か(へりきぬ(神)かへりきぬ(類・版)(45)たつぬれば↓尋ねれば(神)(46)この人↓此人(神)(47)かうく<sup>48</sup>の事↓かうく<sup>49</sup>の事(神)思ひけかしける↓おもひけかしける(譚)神・版(48)おもひける(類)(49)つみ↓罪(神)(50)のかれかた↓のかれかた(譚)類・版)逃れたたくて(神)(51)いひけり↓云けり(神)(52)さらにつねの↓更に常の(神)

さてあるとき、あしたのかゆをもてきたりけるに、あたりに人もなく侍ければ、まことにや、おのれは不浄観をこらす事あんなるといひければ、さる事いかた侍らん。さやうの事はちゑある人

こそし侍なれ。(13)この身のありさまはみなしろしめしたるらむといひけり。いかにかゝる事はいふそ、みなしりたるものを。その心は心ばかりはどうとくありかたか思に、かく心おきてあるこそといひければ、その事に侍。なにとふかくはしり侍らねとも、おろ／＼はつかうまつり侍といひければ、さためてしるしあるらんな。そのかゆ観してみせたまへといひければ、おしきをうちおほひて、とはかり観念してあけて侍ければ、みなしろきむしにそなりてける。これをみて、このあるしきめ／＼となきて、かならず我を道ひき給へよ、とねんころにそあつらへける。いとありかた侍ける事にこそ。天台大師の次第禪門といふ文に、おろかならんもの、つかのほとりにゆきて、みたれくさりたらむ死人をみれば、観念成就しやすしと侍めれば、この人もさやうに侍けるにこそ。また、止観のなかに観をときて侍には、山河も皆不浄也。くひもの、きもの、又、しやう也。飯はしろき虫のことし。衣はくさきもの、かはのことしなと侍めれば、かの人の観念実にいみしくて、おのつから聖教ノ文にあひかなひて侍けるにこそ。されは天竺ノ仏教比丘は、うつはものはとくろのことし。飯は虫のことし。衣はくちなはのかはのことしとくさき、もろこしの道宣律師は、きはこれ人の骨也。土はこれ人の肉也、とは説たまふぞかし。

〔校異〕(1)さてあるとき(神)あるとき(類)(2)あした朝(神)(3)きたり(神)きたり(類)(4)あたりに(類)あたりに(類)(5)まこと(神)(6)おのれ(神)おのれ(類)(7)不浄観(神)不浄観(類)(8)いひ(神)いひ(類)(9)侍らむ(神)侍らむ(類)(10)さやうの(神)さやうの(類)(11)ち(神)ち(類)(12)人(神)人(類)(13)侍なれ(神)侍なれ(類)(14)この身(神)この身(類)(15)あり(神)あり(類)(16)らむ(神)らむ(類)(17)その(神)その(類)(18)とうとく(神)とうとく(類)(19)あり(神)あり(類)(20)心に(神)心に(類)(21)欠(神)欠(類)(22)さため(神)さため(類)(23)かへ(神)かへ(類)(24)みせ(神)みせ(類)(25)いひ(神)いひ(類)(26)おし(神)おし(類)(27)侍(神)侍(類)(28)みな(神)みな(類)(29)しろ(神)しろ(類)(30)ある(神)ある(類)(31)なき(神)なき(類)

て泣て(神)(32)道ひき給へよ(神)道ひき給へよ(類)(33)あり(神)あり(類)(34)大師の(神)大師の(類)(35)いふ(神)いふ(類)(36)おろ(神)おろ(類)(37)つかの(神)つかの(類)(38)死(神)死(類)(39)死(神)死(類)(40)この(神)この(類)(41)また(神)また(類)(42)止観(神)止観(類)(43)なか(神)なか(類)(44)と(神)と(類)(45)侍(神)侍(類)(46)く(神)く(類)(47)き(神)き(類)(48)又(神)又(類)(49)く(神)く(類)(50)か(神)か(類)(51)侍(神)侍(類)(52)か(神)か(類)(53)実(神)実(類)(54)お(神)お(類)(55)聖(神)聖(類)(56)か(神)か(類)(57)天竺(神)天竺(類)(58)う(神)う(類)(59)こ(神)こ(類)(60)木(神)木(類)(61)肉(神)肉(類)(62)土(神)土(類)(63)是(神)是(類)(64)肉(神)肉(類)(65)と(神)と(類)

かやうのいみしき人々のときおき給事をもしらぬ。あやしの僧のおのつからそのおしへにあたりて侍けん、たのもしく侍かな。そのくはんを成就するまでこそなくとも、かやうにしりく侍めなは、さすかいは木ならねは、五欲の思やう／＼うすくなりて、むかしにもあらぬ心になり侍なんするぞかし。おりふしのうづれはかはるころもてに、すゝろに心をくたき、あさゆふのしはおりにくふるけふりゆへに、いたつらに身をなやまし侍らんは、けにくちなはのかはをたつね、しろきむしをもとめて、にしにはしり東にかへりみるにかはらざるへし。かやうにいふを、世中の人はたえかたのことや、いける身のならひ、この二こととはたかきもあやしきもみなあることぞかし。さなくはいかてか、時の間もなからへておこなひをもすへきなどあらぬさまにいふ事も有へし。これはいみしきひか事也。されは仏もふつにもちある事なかれとはいましめたまはず。たかやうに思ひやりて、いみしき思ひをなす事なかれとそをしへ給める。このことはりをしらぬになりて、あさやかなるころも、こまやかなるあちはひ、食欲の心もふかくをこり、

をろそかなるあちはひ、<sup>(45)</sup>をちふれたるころもには、<sup>(46)</sup>しんいの思ひ<sup>(47)</sup>  
 あさからず。よしあしはかはれども、りん糸のたねとなる事はこ  
 れおなしかるへし。かならずよしあしにつけて、<sup>(51)</sup>慈悲心おさきと  
 して、<sup>(53)</sup>あはれいかなるものゝいとなみたしなみて、<sup>(54)</sup>わひしと思つ  
 らんとあはれをかくへし。うきよにありへて人にましらひけるな  
 らひのくちおしさは、<sup>(59)</sup>さしあたりて人のめたゝしく思ひたるとき  
 にはさは思へとも、<sup>(61)</sup>しのひかたきことも侍へきにや。それにつけ  
 ても、<sup>(68)</sup>あはれむやくに侍へき事かな。ゆめのうちのかりそめ事ゆ  
 へに、<sup>(67)</sup>なかきよにねふらん事、<sup>(65)</sup>からくそ侍へきなと思へきにや。  
 かやうにたに思ひてすこしかなしむ心も侍かし。

〔校異〕(1)ときおき給事↓ときをき給事(宮・譚)説置給事(神)ときを  
 給事(類・版)(2)おのつから↓をのつから(宮・譚・神・類・  
 版)(3)そのおしへしををしへ(譚・類・版)其をしへ(神)(4)  
 侍けん侍りけん(神)(5)たのもしく↓たのもしくも(為・宮)(6)  
 くはんを↓わんお(為)願(神)願を(類・版)(7)しり↓知(神)  
 (8)いは木ならねは五欲の思やう(うすくなりて↓欠文(譚)(9)  
 いは木↓いはき(為)宮(神)岩木(神)(10)思↓おもひ(神)(11)心に  
 なり↓心(神)(12)おりふしの折ふしも(神)(13)うつれ↓移  
 れ(神)(14)てに↓手に(神)(15)あさゆふのしはおり↓あさ夕の柴  
 折(神)(16)ゆへに↓ゆゑに(為)宮(神)身を↓身お(為)(18)か  
 はをたつね皮を尋ね(神)(19)むし↓虫(神)(20)にしはしり↓西  
 に走り(神)(21)かやうにいふ↓か様に云(神)(22)たえかた↓たゑ  
 かた(為)たへかた(譚・類・版)(23)こと↓事(為)宮(神)(24)なら  
 ひ↓習(譚)(25)この二こと↓此二こと(譚・類・版)此ふたつ(神)(28)  
 (神)(26)たかき↓高き(神)(27)あやしきも↓いやしきも(譚)(28)  
 あること↓ある事(為)宮(神)(29)時の間↓時のま(為)宮(神)(32)有へ  
 し↓あるへし(為)宮(神)(33)これは↓是は(神)(34)ひか事↓ひかこ  
 と(譚・類・版)(35)たまはず↓給はず(神)(36)思ひ↓おもひ(神)  
 (37)思ひをなす↓思ひおなす(為)おもひをなす(譚・類・版)(38)  
 なかれとそ↓なかれと(類)(39)この↓此(神)(40)しらぬに<sup>(41)</sup>なりてあ  
 さやかなるころも↓しらぬに<sup>(42)</sup>なかれとそをしへ<sup>(43)</sup>給める(譚)しらぬも  
 の(神・類・版)なりてあさやかなるころも(譚・神・類・版)は欠文  
<sup>(44)</sup>こまやかなるあちはひ↓このことほりやかなるあちはひ(譚)こま  
 やかなるあちはひには(神・類・版)(42)貪欲の↓貪欲ノ(為)(43)  
 ふかく↓深く(譚)(44)をこり↓おこり(類)(45)あちはひ↓味(神)  
 (46)ころも↓衣(神)(47)しんいの思ひ↓願患のおもひも(神)(48)  
 りん糸のたね↓輪廻の種(神)(49)なる事↓成事(神)(50)おなし↓を  
 なし(為)宮(神)同じ(神)(51)つけて↓付て(神)(52)慈悲心お↓慈  
 悲心を(宮・譚・神・類・版)(53)あはれ↓哀(神)(54)わひし↓佗  
 し(神)(55)思つらん↓おもひつらん(神)思へらん(類)(56)あはれ

↓哀(譚・神)(57)うきよ↓うき世(譚)憂世(神)(58)ありへて  
 ↓ありへき(類)(59)くち↓口(神)(60)思ひたるとき↓おもひたる  
 時(神)(61)思へとも↓おもへとも(為)宮(譚・類・版)おもへ共  
 (神)(62)しのひ↓忍ひ(神)(63)かたきことも↓かたき事も(為)  
 宮(譚・神)(64)つけて↓付て(神)(65)侍へき↓侍るへき(神)(66)  
 ゆめのうち↓ゆめ(の)うち(譚)夢の中(神)(67)かやう↓か様(神)  
 (68)心も↓こころも(宮・神)

(昭和四十九年九月十七日受理)